

[7月 外来医師一覧表]

新/新規患者 再/再来患者

Table with columns for medical department (診療科), month (月), and days of the week (火, 水, 木, 金). Rows list various departments like Orthopedics, Nephrology, etc., and the attending physicians for each day.

※担当医師は月により変更することがあります。ご了承ください。

[サイクル]

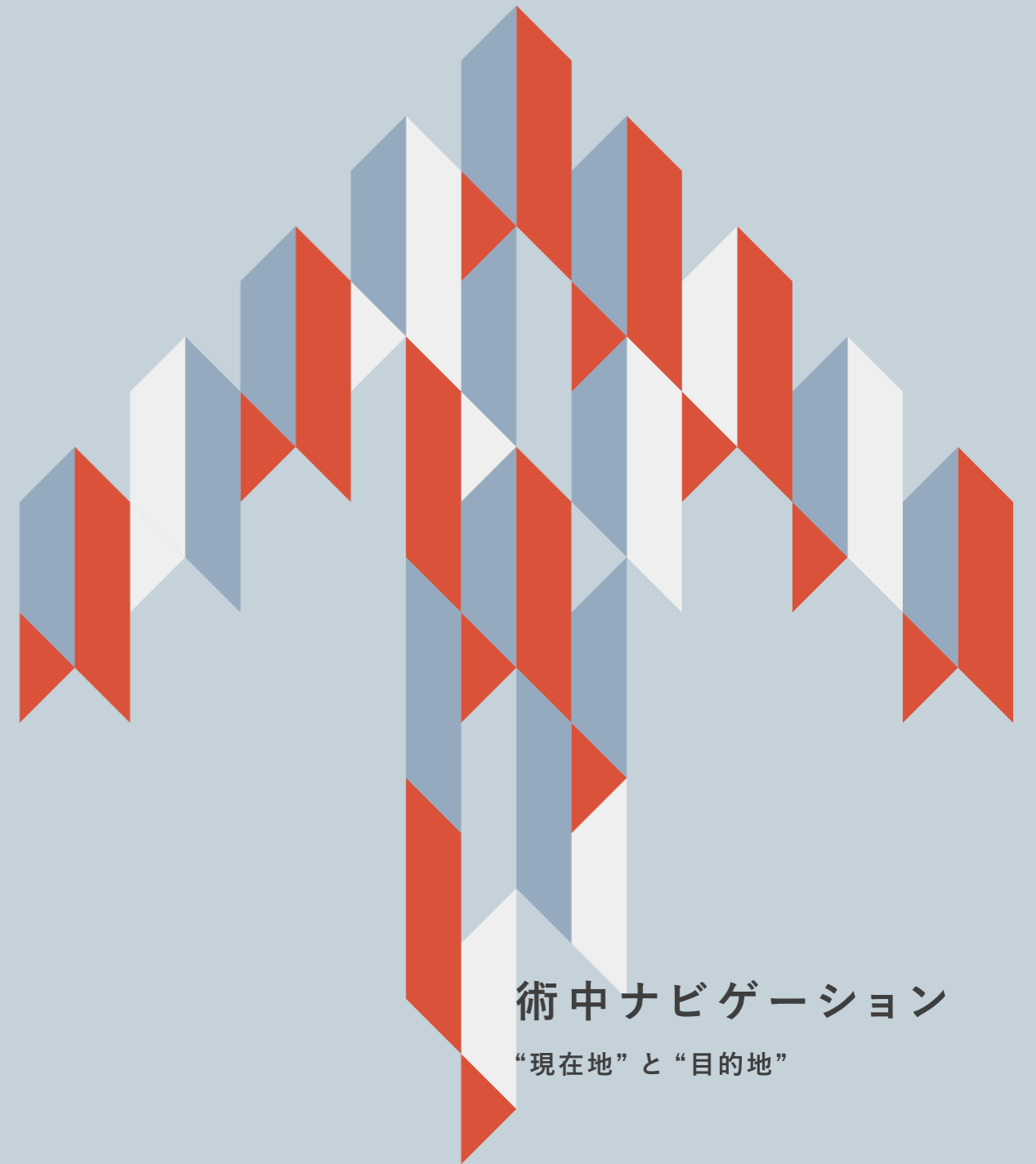
済生会熊本病院 連携広報誌

vol.83

2023.June

s a i k u r u

明日へつながる、より確かな医療連携をめざして。



術中ナビゲーション

“現在地”と“目的地”





## ナビゲーションシステムによる 安全性と低侵襲の追求

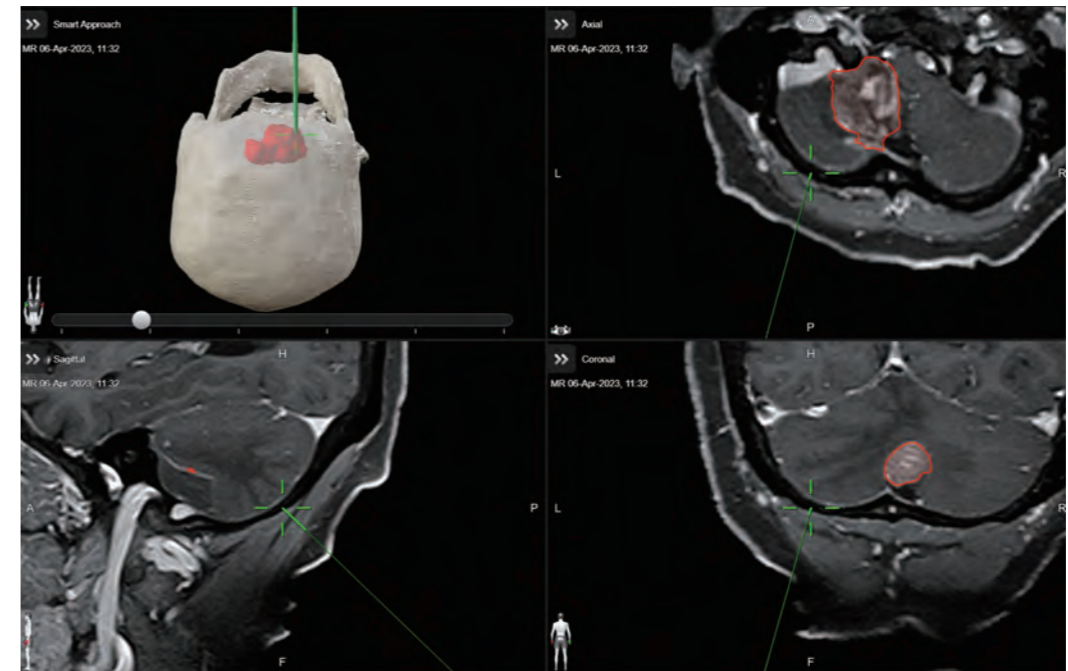
当院では2023年5月よりナビゲーションシステムを導入し、脳神経外科領域の主に脳腫瘍の手術で積極的に活用しています。

このナビゲーションシステムは自動車の運転時に使用するカーナビのようなものです。事前に撮影したCTやMRI画像をもとに脳の地図を作成し、手術中はリアルタイムで現在地と目的の位置情報を把握することが可能です。そのため脳の深いところにある腫瘍にも有用で、重要な神経や血管を傷つけることなく安全に手術が行えます。

また、ナビゲーションシステム導入前は頭蓋の切開位置は医師の経験で決定していましたが、システムのナビゲートにより傷口や開頭範囲を小さくすることができるため、患者さんにとって身体への負担の少ない「低侵襲」な手術が実現します。

### 対象

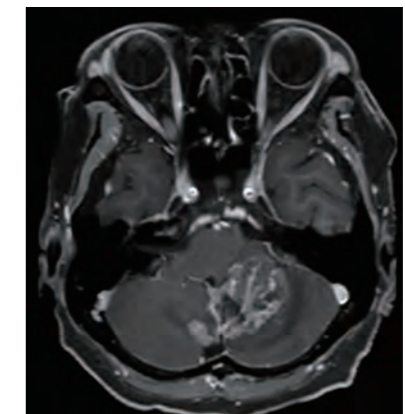
- 脳腫瘍摘出術および生検術
- 脳動脈瘤クリッピング術
- 脳動脈奇形摘出術
- 水頭症手術
- 内視鏡下血腫除去術
- 下垂体腫瘍摘出術など



△ 術中ナビゲーション画面

### case. 転移性脳腫瘍

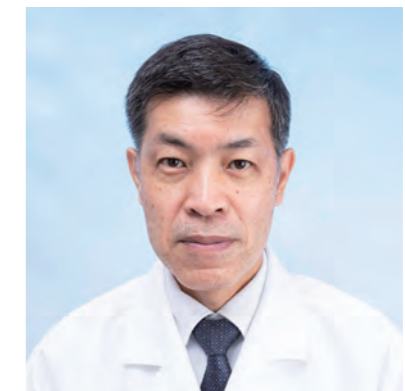
症例は小脳から脳幹部にかけて発生した転移性脳腫瘍（原発：乳癌）の例で、ナビゲーションシステムを併用し頭蓋内腫瘍摘出を行いました。ナビゲーションシステムを用いると、内部の腫瘍の位置と大きさが皮膚や頭蓋骨上でわかります。本症例では、必要最小限の大きさの開頭で腫瘍摘出を始めることができました。腫瘍摘出中は周囲が腫瘍組織ばかりで目印がないのでディスオリエンテーション（脳内で迷子になってしまうこと）になりがちですが、操作部をMRI画像上で常時確認することができました。脳幹部を損傷すると後遺症が残るので、脳幹部が露出する手前で摘出を終了する計画でしたが、同システムのおかげで脳幹部の大事な血管や神経を損傷することなく、最大限の腫瘍摘出を完遂することができました。



△ 術前MRI画像

### より確実に、安全に

深部で複雑な部位の脳腫瘍に対しても、自信を持って安全な摘出ができるようになりました。脳腫瘍のような脳外科のメジャー手術のみならず、水頭症に対するシャント術や脳出血など、脳への穿刺を主体とする手術でも、確実な穿刺により手術時間を短縮でき、しかも、合併症が減ることが期待されます。これまでより難易度の高い症例に対しても、安全確実な手術を提供することで、地域医療に貢献できると思います。



脳神経外科部長 山城重雄

